

進路だより

令和5年4月28日発行

岩手県立釜石祥雲支援学校

進路指導部

< 校長挨拶 >



3月下旬より穏やかな天候の日が続き、岩手県内各地でも例年に比べ、だいぶ早い桜の開花が確認されました。本校でも、桜開花の便りとともに、始業式、入学式を挙行することができ、令和5年度の学校生活がスタートしました。

新校舎で初めて迎える新年度に、児童生徒も心躍る気持ちを表わしてくれ、校内は明るい笑顔や元気な声で、活気に満ち溢れています。

今年度も、児童生徒にとって、より多くの学びが得られ、日々の生活が豊かなものになっていくよう、教職員一同、保護者の皆様とともに手を取り、歩んでいければと考えています。

さて、本通信は、「進路だより」というタイトルが示すように、児童生徒の今後の進路を考える上で知っておきたいことについて情報共有することを目的に作成させていただいているものです。「進路だより」を御覧になりながら、小学部、中学部のうちは、「進路」というと、まだ先のこととイメージすることがあるかもしれません。「進路」に関連した言葉として、「キャリア発達」という言葉があります。その意味は、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」を示します。この言葉の意味を重ねて考えると、小学部、中学部、高等部を通じての学校生活、家庭生活、そして、その後の生活も含めて、子ども達が自分らしい生き方をしていけるように支えていくことが進路支援ということになるかと思えます。

そう考えると、基本的な生活習慣として身の回りの自分でできることを増やしていくことや、挨拶をしたり、返事をしたり、笑顔を見せるなどして人と関わること、自分の好きなことや苦手なことなど、自分のことが分かり、意思表示できることなどが、子ども達の自分らしい生き方の実現につながっていくことであり、「進路」という言葉もちょっと身近に感じられるかと思えます。

もうひとつ、「進路」を考える上で、大切にしたい言葉が「自己」です。文字通り、自分自身を意味しますが、自分らしい生き方を実現していくためには、自分のことが分かり（「自己理解」）、自分で見たことや経験したことをもとに、自分でやりたいことを選び出していき（「自己選択」）、自分の考えで判断し、結論を出す（「自己決定」）プロセスが重要であると考えます。ぜひ、学校生活、家庭生活の様々な場面を通じて、子ども達が自分のことに気づく機会や選ぶ機会、決める機会を大切にし、子ども達の成長を支えていきたいと考えます。今年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。



岩手県立釜石祥雲支援学校
校長 外 館 悌



卒業生 スタート

この春、9名の方々が高等部を卒業し、社会人の仲間入りをしました。この場をお借りして現在の様子を一部ですがご紹介したいと思います。（全員載せられなくてすみません。）



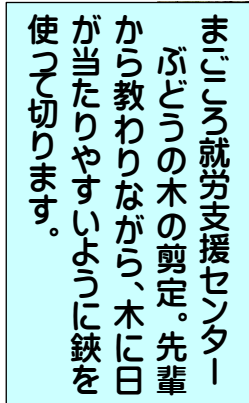
わらび学園
ダンボールの仕切り作り。鮭フレックの瓶が割れないようにクッションになります。集中力が必要です。



つくし共同作業所
マスク入れ。これから塗装する部品の内側に塗料が入らないように穴にマスクを差し込みます。



かまいしワークステーション
「ネクター」部品の組み立て。細かい作業で根気のいる仕事です。難しいです。



まごころ就労支援センター
ぶどうの木の剪定。先輩から教わりながら、木に日が当たりやすいように鉄を使って切ります。



お知らせ

先日お配りした進路希望調査①（対象：小学部2年生～高等部3年生）の提出が**5月8日(月)**までです。提出がまだの方はよろしくお願いします。

進路担当職員の紹介

今年度の進路担当職員です。進路に関してご不明な点などがありましたら、各学部の担当職員までご相談ください。よろしくお願いします。



斎藤道幸(高等部)



及川慧子(高等部)



菅野崇子(高等部)



佐々木良隆(中学部)



志田 望(小学部)